

事業名	褒賞費	財務コード (事業)	036903
-----	-----	---------------	--------

細事業名	勲章・褒章受章伝達式開催費
------	---------------

担当部課室	知事政策 局 秘書 課 総務栄典 担当 (内線)	1054
-------	--------------------------	------

事業の概要

実施期間	始期 S26 年度 ~ 終期 年度		
実施主体	県(直営)		
事業の目的	誰(何)を対象に	その対象をどのような状態にして	結果、何に結びつけるのか
	春秋叙勲・褒章、危険業務従事者叙勲の受章者	永年の功績が称えられる	更なる精進の奨励と県勢の伸展
事業の内容 主に 24年度	<p>事業概要 地方自治、保健衛生、消防等(除く警察・教育)に従事した個人又は団体にして特に秀で他の模範となる者について与えられた勲章の伝達式を行う。年2回実施し、春は4月29日(みどりの日)、秋は11月3日(文化の日)に内閣府から発令が行われ、勲記・勲章の伝達を知事から行う。春秋叙勲受章者はH24年度実績で36名。</p> <p>事業経費 受章者が約20名で同伴者を入れると毎回約40名の方が一堂に会して伝達式が行われるため、ホテルなどの会場の借上げが必要となる。また、記念品、記念写真更には受章者は高齢者が多いため、体調の不調を訴えられた方に対して迅速に対応できるよう、山梨県看護協会より1名の看護師を派遣してもらい、不測の事態に備えている。</p>		
	根拠法令等		

事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

事業の実施状況と 目標の実現度	23年度	24年度		25年度	26年度	事業目標の考え方	
	実績値	目標値	実績値	見込値	目標値		
活動指標	受章者数	42	40	36	40	40	活動指標 目標設定の考え方 継続的に表彰を行う必要があるが、積極的に受章者の増加を働きかけるものではないため、前年度実績を目標とする。 データの出典等 過去の実績数値
	活動指標達成率 (実績値/目標値)		90.0 %				
成果指標	成果指標達成率 (実績値/目標値)						成果指標 目標設定の考え方 データの出典等
	決算額、予算額 (千円) うち一財額	791	791	696	1,102	1,134	成果指標によらない成果 この事業により伝達式が継続的、安定的に毎年行われることで、受章者の永年の功績が称えられているとともに、後進の者の目標や励みとなるなど、有効に機能している。また、地方自治・保健衛生・危険業務等に従事している者にとっても将来の励みになるものと思われる。
所要時間(直接分)	1653 時間	1653 時間	1653 時間	1473 時間	1293 時間		
所要時間(間接分)	0 時間	0 時間	0 時間	0 時間	0 時間		
所要時間計	1,653 時間	1,653 時間	1,653 時間	1,473 時間	1,293 時間		
人件費1人単位:千円 (@2,050円×所要時間)	3,389		3,389	3,020	2,651		

これまでの事業の見直し・改善状況

--

活動量と成果の判断(平成24年度の業績評価)

(1) 事業は予定された活動量を上げているか。(「活動指標の達成率」等から、事業の活動量を判断)

数値判定 H24年度 活動指標 達成率	活動量に係る 一次評価	活動量に係る一次評価の考え方 数値判定と一次評価とが異なる場合等に記入すること
b	b	

a: 予定を超えた活動量がある(120%以上)。 b: 予定どおりの活動量がある(80%以上120%未満)。 c: 予定したほど活動量がない(40%以上80%未満)。 d: 予定した活動量に著しく足りない(40%未満)。

(2) 事業は意図した成果を上げているか。(「成果指標の達成率」、「成果指標によらない成果」から事業の成果を判断)

数値判定 H24年度 成果指標 達成率	成果に係る 一次評価	成果に係る一次評価の考え方 必ず記入すること
	b	この事業により伝達式が継続的、安定的に毎年行われることで、受章者の永年の功績が称えられているとともに、後進の者の目標や励みとなるなど、有効に機能している。また、地方自治・保健衛生・危険業務等に従事している者にとっても将来の励みになるものと思われる。以上のことから、意図した成果はほぼ上げている。

a: 意図した成果を十分に上げている(120%以上)。 b: 意図した成果はほぼ上げている(80%以上120%未満)。 c: 意図した成果は十分ではないが、対象や方法の改善により成果の向上が見込める(40%以上80%未満)。 d: 意図した成果が十分でなく、成果を上げる方法も見あたらない(40%未満)。

見直しの必要性(平成26年度に向けた改善等の考え方)

一次評価(担当部評価結果)		
見直しの必要性	説 明	以外の 判断項目
有	叙勲・褒章の上申の事務手続きにおいて、各課との連携及び各省庁との連絡をより密にするとともに、栄典事務におけるマニュアルを改め、事務効率の改善につとめる。	k

・「以外の判断項目」の欄
必要性(a.目的の達成 b.新たな課題への対応 c.対象の変化 d.ニーズの変化 e.法律・制度の改正) 官or民(f.民間等実施) 官の役割分担
(g.市町村等へ移管) 効率性(h.外部委託 i.経費節減 j.類似事業と統合・連携 k.所要時間の縮減 l.プロセスの改善 m.その他

二次評価(担当部局再評価結果) 行政評価アドバイザー会議(外部評価)での指摘事項を踏まえた担当部局による再評価

見直しの必要性	説 明	以外の 判断項目

・「以外の判断項目」の欄は、上記と同様とする。

見直しの方向(平成25年度当初予算等での対応状況)

見直しの方向	具体的な実施計画等
実施方法の変更	栄典事務のマニュアルを改定し事務効率を改善することによって、所要時間の縮減を図る。

・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること。なお、見直しがない場合は、「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること。